

JAAC だより

— 求められるプレゼンテーション力とは（後編） —

～ “表現力” と “思考力” ～

前号では、プレゼンテーションは『相手のレディネス』を確認して『相手のニーズに合わせる』ことの大切さや、相手に伝えたいことを効率よく伝達するための『伝達効率』を考えて行うこと、などをお話してきました。今月号では、これらの点を踏まえてプレゼンテーションにおける“表現力”と“思考力”とはどのように関連性をもつのか、ということをご一緒に考えてみたいと思います。

まず、“思考力”について考えてみましょう。プレゼンテーションを行う上で明確にすべきことは、自分が『何を』、『誰に』、『どこで』、『どのようにして』、伝えようとしているのか、ということです。つまり、実際のいかなるプレゼンテーションを行う際にも、これらの要素を十分に“思考”することが最も重要なことです。それでは、このことをJAAC生の皆さんの誰もが経験するであろう就職試験における面接にあてて考えてみましょう。

先に挙げた4つの要素に該当する内容を当てはめてみると、一般的には『何を』＝「自分自身のことや、相手の質問に対する自分の考えや意見」、『誰に』＝「会社の面接担当者や役員」、『どこで』＝「会社の会議室や指定された会場」、『どのようにして』＝「面接形式による」、となります。『何を』については、想定される質問集や質疑応答例集などの参考書で準備ができるとしても、結局は自分自身の意見を持ち、それを言い表さなくてはなりません。したがって、ここで大切なことは普段から様々なことについて自分なりに考え、自分の意見を明確に持つという地道な訓練を習慣化することが必要だと思えます。私見ですが、このことを習慣化して努めている学生は一般的に少ないように思えます。自分の専攻や大学生活で得た貴重な体験について述べられるようにすることも大切ですが、時事問題や我々の社会や日常を取り巻く様々な事柄にも普段から興味を持ち、それらに対する自分自身の考えをしっかりと持つことに努めましょう。

あたりまえのことですが、『誰に』に相当する会社の面接担当者は、普段、皆さんが接してしる同年代の学生たちではありません。しかも日本語による面接です。もちろん、志望する会社が外資系の場合は、外国人による面接もあることでしょう。いずれにしても、そのような相手に対しては英語であろうと、日本語であろうと普段何気なく使っているフランクな言い方や、学生たちだけで通用する特殊なことばは不適切ですね。特に、皆さんの場合は、普段から大人の日本人と接する機会が少ないと思えますので、日本語の「適切なことば使い」があまり身につけていないと思うべきでしょう。また、多くの場合、このような面接は「会社の会議室や指定された会場」で行われ、これが『どこで』に相当します。一般的に面接会場となる部屋はあまり大きなものではなく、中規模の会議室と思ってよいでしょう。面接も初期の場合は合同で行われることが多いですし、一次、二次と面接の機会が増すごとに小規模な部屋になることもあります。さらに、面接担当者が一人か複数なのか、また、社内での役職や地位がどの程度なのかによっても使われる部屋の大きさや雰囲気も異なることでしょう。皆さんに限らず学生であれば誰もが普段からこのような場所に来ることはないのですから、その非日常的な雰囲気に圧倒されて、部屋に入ったとたん緊張感を覚える人たちがほとんどでしょう。このように慣れない環境下で、最高の自分を演出しなくてはならないことをよく肝に銘じておいてください。

面接が『どのようにして』行われるかと言えば、先にも触れましたが、面接担当者との対面式面接が一般的です。その席では、皆さんは椅子に座り、尋ねられる事柄について資料も無ければ、メモを取るということもありません。また、前号でもお話した、伝達効率を上げるための視聴覚に訴えるためのツール類を使うこともありません。相手は皆さんのプロフィールが書かれている資料を目の前に持っていますが、皆さんの手元には何もありません。ここで言うところの『どのようにして』は、このような状況の中で、如何に自分自身の最高の姿を表現できるかという、まさに皆さんの“表現力”にかかっているのです。

就職面接の場で言われる“表現力”とは、一つの捉え方としてですが、ステージの上で決められた役を演じる役者に求められることに相通じるものがあると思えます。皆さんは、面接会場というステージで、就職試験を受ける大学卒業見込み者という役柄を、自分自身で演じることになるのではないのでしょうか。実際の役者にはその役に応じた衣装も台詞もありますが、皆さんにあるのは、俗に言う紺色系のリクルートスーツという衣装だけで、台本も台詞も用意されていません。（次頁に続く）

皆さんは就職面接という演目で演じる自分自身の役の台詞を、自分自身で考えることになるのです。さらに言えば、先に述べた4つの要素にしたがって、就職面接における脚本、演出、舞台監督といった全ての役を一人でこなすことになるのです。もちろん、一番重要な役者の役を演じるのは言うまでもないことです。これら全ての役割を果たし、役を演じる際に必要とされるのが“表現方法”であり、その力量が問われる“表現力”と言えるでしょう。

では、ここで言う“表現力”とは具体的にどのようなものかを、皆さんの立場に置き換えて考えてみましょう。まず、面接をする際の台本と台詞ですが、就職面接の場合はこれらが決まっているものと、そうでないものがありますね。面接担当者から、『当社を志望した理由は何ですか?』というような一般的に予想される質問に対する回答は、皆さん自身が考えてそれを台詞にすることができますが、それ以外の質問についてはケース・バイ・ケースの対応が要求されます。つまり、アドリブですね。また、選ぶことばにも日本語の持つ特性としての「尊敬語」や「謙譲語」に注意を払わなくてはなりません。ことば使いにしても、『えー』とか『あー』ということばを普通の癖のように使っていてはとても聞き苦しいですし、基本的なことばの正しい発音やアクセントの置く位置、イントネーションなども良く理解しておくことが大切です。さらには、相手に伝える内容の構成も大事なことです。「結論後発型」でほどよい起承転結にしたがって相手に伝えれば、順を追っての話の進み具合により相手は理解しやすいでしょう。しかし、その反面インパクトに欠けると思われがちです。反対に、「結論先行型」でいきなり結論から切り出せば、相手の注目を引くことはできますが、話の構成上どのような経緯を経てまとめるか、という難しい面もあります。いずれも、自分に与えられた時間内で話をまとめて終わらせるという時間的制約があることを覚えておきましょう。

さらに、“表現力”には、如何に最高の自分自身の姿を創りだすか、ということが含まれます。衣装は“リクルートスーツ”と決まったわけですから、普段、着慣れないその衣装を身にまとった自分自身の身体の動きに気を配ることは当然です。すなわち立居振る舞いや、一つひとつの所作などから醸し出される品格や品位ともいべき雰囲気を持ち合わせる。そして、他人と接する際の必要最低限のマナーを身に付け、「社会人になるための準備ができています」ことを相手に伝えることが何よりも大事なことだと思います。これらに加えて、実際の面接では皆さん自身の人間的側面である「人柄」や「態度」、「身だしなみ」や話す時の「視線」、「表情」、自分の意見を伝える際の「情熱」、「迫力」、等々が試されます。これらは一夜にして習得できるものでは決してありません。就職活動を考え始めた時から地道な準備を進めることが大切です。かつては皆さんと同じ学生だった面接担当者の方々も、今では豊富な経験から確かな人材を見極める目を持つ百戦錬磨の面接の達人たちです。そんな彼らにとっては、にわか仕立てに表面だけを取り繕った学生の姿を見抜くことなど造作もないことでしょう。

就職面接の場では、皆さんは「自分自身という素材の優位性」についてプレゼンテーションを行うプレゼンターであると言えるでしょう。プレゼンターに求められるものは、その“思考力”によって入念、且つ、十分に行う準備と、それらを余すことなく発揮する“表現力”です。そして、プレゼンテーションにおいては“思考力”と“表現力”のどちらが欠けても、“プレゼンテーション力”は弱いものとなります。結果として、必然的に高い“伝達効率”を得ることはできません。それではいくら皆さん自身が素晴らしい人材であっても、他の人にそれを理解してもらうことはできませんね。どうか皆さん、この機会にプレゼンテーションについてより理解を深めていただき、皆さんの就職活動に役立てていただきたいと思います。就職活動とは、最高の自分自身をプロデュースすることなのです。(完) (カリフォルニア事務局： 照井)

情報コラム： 就職活動の開始時期をめぐって

2012年春に卒業する現大学3年生の就職活動が始まった今、就職活動の開始時期をめぐって新たな論議が始まりました。多くの大手商社などが加盟している日本貿易会では、現在のように大学3年生の秋から始まる就職活動が学生の勉強の妨げになると懸念し、会社説明会などを大学4年生の夏に行うことなどを提案しています。このことにより、特に米国を中心に海外での留学経験を持つ学生の獲得にも期待をしています。しかしながら、他業界では採用活動を遅らせることに消極的な企業も多く、金融、証券、製薬会社やメーカーなどでは、外資系企業による優秀な学生の早期獲得を懸念するところも多いのです。また、一般的に中小の企業では大手企業が採用内定を出した後でも学生の採用活動を行うところが多いことから、こうした中小の企業では学生が卒業するまでの間に十分な時間をかけた採用活動ができるかどうかとも思案しています。

また、今春の大卒者の就職内定率が過去2番目に低い水準の91.8%であったことを受け、政府は今年8月、卒業後3年以内の既卒者を新卒者扱いとして採用した企業に奨励金を支給する新卒者支援策を打ち出しています。しかし、学生は卒業後の3年間を海外留学やボランティア活動などに参加するなど、有意義な過ごし方をしていなければならないなどの制約もあるようです。このような状況下においては、従来の新卒者と卒業後3年以内の既卒者が同時期に就職活動をすることもあり、ますます就職活動が激化することが予想されます。

JAAC生の皆さんにおかれましては、アメリカ国内で開催されるジョブ・フェアやキャリア・フォーラムなどを通じて就職活動をされる方も多いと思いますが、帰省して日本国内での就職活動を行う際のことも考えて、就職活動開始時期について今後も注目していただきたいと思います。今までもことある毎に申し上げてきましたが、日本の企業はますます何らかの海外経験を持つ学生の採用に積極的に取り組んでいくと思われまますので、どうか自信を持って就職活動に臨んでいただきたいと思います。(照井)

Siesta ちょっと、一休みませんか・・・？

～ Regime Change ～

『政権交代』

今回は政治に関わることばの英語表現を見てみましょうか。日本では長年続いた自民政権から民主党政権へと政権交代が行われました。この『政権』ということばですが、英語では regime と表します。民主党 (the Democratic Party) は与党 (the government party または the ruling party) となり、自民党 (自由民主党：the Liberal Democratic Party：略称 LDP) は野党 (the opposition party) となったわけです。いずれの政党 (political party) にも日本の政党独特の派閥 (faction) があり、党内での派閥争い (factional strife / factional dispute) が絶えません。そして新内閣 (new cabinet) の組閣 (the cabinet formation) では派閥人事 (factional personnel appointments) がいつも話題になりますね。

こうして見てみると、何気なく使っている政治に関することばや新聞で見かけることばの英語表現は、普段あまり使わないですね。ところで、JAAC 生の皆さんは留学先で普段から新聞を読んでいますか？ インターネットでニュースを読むことに慣れている世代だと思いますが、やはりアナログ的だと思いでしょ、新聞や雑誌に目を通すことを習慣づけて、“読み慣れる”ことも大切ですよ。

社会コラム：異文化による考え方の違い

日本領海内の尖閣諸島 (Senkaku Islands) 沖で操業していた中国漁船の船長を海上保安庁が逮捕したことから端を発した日本と中国との間の摩擦。中国のいくつかの都市では抗日デモが行われるなど、日本に対する風当たりが厳しい。この件における日本政府の対応は当初から後手にまわり、中国に対してものを申すことができない国、日本を露呈してしまったようだ。両国とも国内の事情や、両国間の利害によってお互いに事の收拾に苦勞しているのがわかる。それにしても、初期の段階に両国が出したメッセージは対照的だったと思う。日本からのメッセージは『相手がどう思うか・・・』を基本に考えていたようだが、中国側のコメントは始終『相手に何を言うか・・・』ということによって出されていたように感じる。両国が出したコメントの内容そのものを云々言うつもりはないが、私は両国の発想こそ両国の文化の違いと国民性の違いを改めて認識したように思う。日本人がその昔から受け継いできた『周り (他人・隣人) の顔色を伺いながら』話すという姿勢は、日本の文化に根付いたものなのだろう。それはそれとして我々の大事な文化である。反対に、中国には中国人の都合と文化がある。これぞ異文化理解の醍醐味なのだろうか。

【編集後記】●急激な円高がさらに進み、1995年4月19日に記録した1ドル=79.75円の円対ドル最高値を更新する勢いである。世界の主要通貨の全面安も手伝い、円高傾向はしばらく続きそうだ。政府はどんな手を打つか。他力本願は通用しない▼名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) が開催される。以前から問題になっていた生物資源の供給側である途上国と、それらを基にした開発側の先進国との間における利益配分規定が話される。どちらも相手側に依存しているのだから、共栄できる合意案を求めたい■羽田空港新国際線ターミナルが10月21日にオープンする。新たに4本目の滑走路も整備され、24時間空港になる。HUB ハブ空港としての役割は果たせるか。韓国をはじめ他のアジアの国にも遅れをとっていることを考えると、『いいよ・・・』というより『やっとな・・・』という感がある▲中国都市部での抗日デモが激しさを増している。デモに参加している人たち全てが本当に抗日感情を持ち合わせているかははなはだ疑問だ。日本製品の不買を訴えるデモ参加者が日本製のデジカメでデモの様子を撮っている姿に中国が抱えるジレンマを感じる◆治安や警備の心配と言えば、日本でもAPEC アジア太平洋経済協力会議が開幕する。各会合が行われる都市での警備は大丈夫なのだろうか。初めて大きな会議の議長を務める管総理の手腕はいかに★今年もボジョレー・ヌーボーの解禁日が近づきました。今年の出来ばえはいかに・・・？！ (照井)

Let me remind you''''

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

★ジョブ・フェアやキャリア・フォーラムへの参加をお勧めします： 2011年・2012年卒業予定の皆さんにおかれましては、日本や米国各地で開催されるジョブ・フェアやキャリア・フォーラム、海外大生を対象とした就職説明会などに積極的に参加されることをお勧めします。インターネット等で各フェアの日程と詳細をお調べください。

※『Tokyo Winter Career Forum 2010』は12月20日 (月)・21日 (火) に東京ビッグサイトで開催されます。

詳細は、<http://www.careerforum.net/> をご参照ください。

▼冬休みに帰省する皆さんへ： 年末年始の帰省航空券の販売が始まっています。格安航空券のご購入はお早めに。また、一時帰国の際に必要な入学許可証 (I-20) には学校担当者のサインが必要です。留学生担当事務局などで早めの手続きを済ませましょう。なお、帰国時の必要書類やその他、ご不明な点やご質問等がございましたら JAAC 本部または JAAC カウンセラーにご相談ください。

●JAAC 本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 tokai@jaac.co.jp 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：t.suzuki@jaac.co.jp ©カリフォルニア担当：照井 k-terui@mtg.biglobe.ne.jp